

第15期 株主通信

2011年4月1日▶▶▶2012年3月31日



絶え間ない技術革新に応えるイノベ ティブな製品を迅速にリリースし、受 注活動を強力に推し進めてまいります。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、第15期（2011年4月1日から2012年3月31日ま
で）を終了いたしましたのでご報告いたします。

当期の世界経済は、欧州の金融不安、中東情勢緊迫化に
よる原油価格の高騰等により不安定な状況が続きました。
日本経済も、東日本大震災により大きく低下した生産活動
がサプライチェーンの復旧に伴い持ち直しの動きが見られ
ましたが、円高の進行や雇用情勢の悪化が長期化し不透明
な状況が続きました。

このような環境の下、当社の主要顧客であるフラットパ
ネルディスプレイ（FPD）メーカーは、主力のテレビ向け
ディスプレイが需要不振とテレビ価格の低迷により生産抑
制を余儀なくされ、設備投資は凍結状態になりました。一
方、スマートフォン向け中小型高精細ディスプレイの生産
は堅調で、関連の生産設備需要は比較的堅調に推移いたし
ました。

当上期は、前期に受注した案件を順調に消化し業績はほ
ぼ計画通りに進展いたしました。しかし、当下期は、今期
受注計画案件が主要顧客の設備投資抑制の影響を受け、計
画通りに受注が獲得できず業績の落ち込みを招きました。
これにより今期の売上金額は、136億8千2百万円（前年同
期比27.4%減）となりました。利益面につきましては、経
常利益5億9千7百万円（前年同期比74.6%減）、当期純利益
3億2千8百万円（前年同期比79.2%減）となりました。

FPDに関する事業環境は、第16期（2012年4月1日～
2013年3月31日）中も非常に厳しい状態が続くと考えられ

ます。FPDメーカーは、これに対応する為に消費者の需要
を喚起する次世代FPD※1の早期製品化とこれに関わる生
産技術の革新を急ピッチで進めています。当社は、この技
術革新に対応し、次世代FPDの量産化と普及に不可欠な製
造装置や検査装置等をタイムリーにリリースし、受注活動
を強力に推し進めてまいります。

同時に、太陽電池やLEDといったFPD以外の事業分野の
開拓にも積極的に取り組んでまいります。特に太陽電池開
連では、太陽電池用反射防止膜成膜装置をリリースし、お
客様から性能の面で高い評価を頂いており今後の展開を期
待しております。

また、これらの装置には高い性能が必要とされています。
当社は、このようなお客様の声に迅速にお応えする為に、
装置の核となる光学技術や画像処理技術といった独自の要
素技術開発と、装置を運用されるお客様の目線に沿った使
いやすい装置の開発を強力に推進しこれらを融合したイノ
ベティブな装置をお客様へ提供する事で、事業活動を加
速させていく所存です。

当社の今後の進展に是非ご期待下
さい。

株主の皆さまにおかれましては、
今後ともより一層のご支援、ご鞭撻
を賜ります様、よろしく願い申し
上げます。

代表取締役社長 杉本重人



※1 次世代FPD：既存のFPDを超えた、より臨場感を体感できるディ
スプレイ。例えば、HD映像（1920×1080画素）を超えた4K×2K映
像、8K×4K映像を表示できる超高精細ディスプレイや、50インチを超
える有機ELディスプレイが挙げられます。これらのディスプレイの特
長は、主に解像度やコントラストといった画質（映像の品質）性能が従
来機と比較して飛躍的に向上している点にあると言えます。

スマートフォン普及を支える技術と PI・テクノロジーの製品について

～IPS液晶ディスプレイの高画質化とスマートフォン～

皆様もよくご存じのスマートフォンは、人が画面を直接触って直感的に操作できる点が高く評価され、画面を触った時に画像がにじみにくく、どんな角度から見ても映像が見やすい特長をもつIPS液晶ディスプレイが広く採用されています。最近、Apple社のiPhone4リリースを契機にIPS液晶ディスプレイの高画質化への要求が一気に高まりました。

ここでは、高画質化の為に開発されたコントラスト※1の向上と高精細化に貢献する二つの技術、そしてその各々に対応する当社の製品についてご紹介いたします。

※1：コントラスト：ディスプレイの白（一番明るい状態）と黒（一番暗い状態）の比。表記は500:1のような比で表され、左側の500が白、右側の1が黒を示します。例えば夜景をディスプレイに表示する場合、コントラスト比が高い程、奥行き感のある画像をディスプレイに表示する事ができます。

～コントラストを向上させ高精細化を実現する二つの技術～

1) 光配向技術によるコントラスト向上

液晶ディスプレイは、パネルの裏からバックライトの光を常に照射しており液晶分子の向きを変えることにより、その光を透過(遮断)し映像を作っています。(図1)

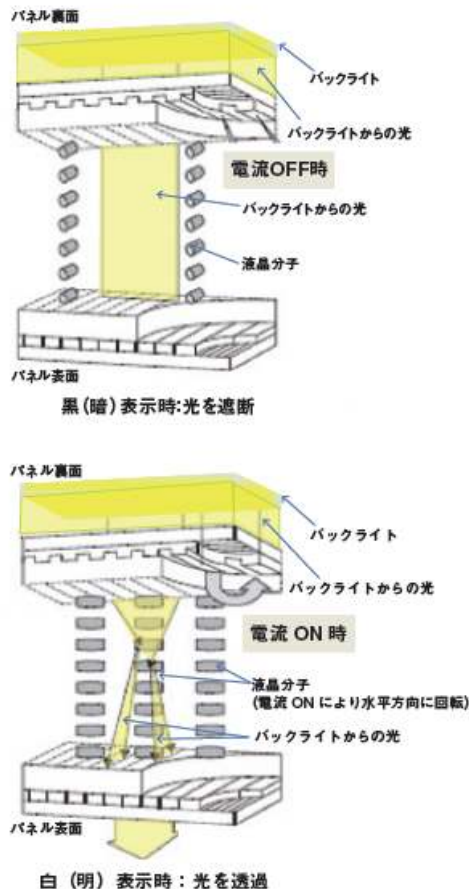
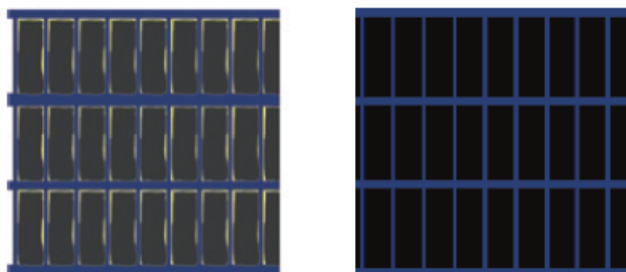


図1 IPS液晶ディスプレイの構造(イメージ)

この為、分子の並び方が不規則な箇所があると光が漏れてしまい、黒を正確に表示する事ができません。(図2)

光配向技術は、光による微細加工により液晶分子を規則正しく並べる技術で、従来の方式と比べ光漏れを防ぎ、コントラストを格段に向上させることができます。



従来方式により配向したパネル
液晶分子が不規則に並んでいる箇所(黄色部)から光漏れが発生

光配向したパネル
光漏れが無く、縛まった黒を実現

図2 従来配向パネルと光配向パネルの比較
(「黒」表示時の画素イメージ)

2) 微細パターン形成技術による高精細化

映像は多くの点(画素)を組合せることで表現できます。より高精細な映像をつくるには、ひとつひとつの画素を小さくする必要があります。1つの画素はバックライトの光を透過する部分と配線で構成されています。配線は光を透過しません。画素を形成する配線の幅が、従来画素と同じ幅のまま画素を増やすと光を透過する部分が狭くなり、パネル全体が暗くなります。(図3)

微細パターン形成技術は、より微細化した配線を用いて光を透過する面積を維持したまま画素数を増やす技術で、画面が明るい高精細なディスプレイの製造に不可欠な技術と言えます。

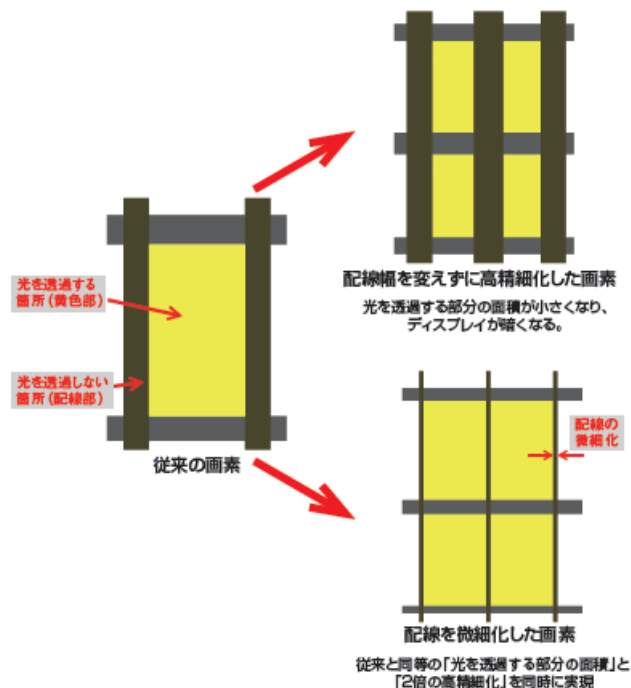


図3 微細パターン形成技術を用いたディスプレイの高精細化(イメージ)

～各々の技術に対応する当社の製品～

IPS用光配向膜露光装置「AEGIS-IPS」は、VA用光配向露光装置「AEGIS-PI」が積み上げた数多くの実績とノウハウを最大限生かして開発されました。本装置は、全ての光配向材料に対応し、従来機と比べて高い生産性を実現している為、量産工場への採用が進んでおります。

また、高精細液晶パネル用露光装置「AEGIS-HR」は従来機と同等の露光性能(400ppi相当の高精細ディスプレイ製造能力)を持ちながら従来機の半分のインシャルコストを実現しています。AEGIS-IPSと同様、高精細液晶ディスプレイを製造する工場へ採用が進みつつあります。

これらの製品は、スマートフォンの一層の普及に貢献するものと考えております。今後の展開に是非ご期待下さい。

Financial Report

●業績・財務ハイライト (連結)

当期 連結業績

●売上高 **13,682**百万円
(前年同期比 27.4%減)

●経常利益 **597**百万円
(前年同期比 74.6%減)

●当期純利益 **328**百万円
(前年同期比 79.2%減)

第15期の業績について、我が国の景気の先行きは、欧州の金融不安や米国の景気低迷及び円高の長期化により不透明な状況で推移しました。当社グループの関連するフラットパネルディスプレイ (FPD) 市場は、中小型液晶パネルは比較的堅調に推移したものの、テレビ向け液晶パネルは需要の収縮化に伴うFPDメーカーの生産調整が長期化し、設備投資が大幅に延伸されました。この結果、売上高などの主な指標は、上記のようになっております。

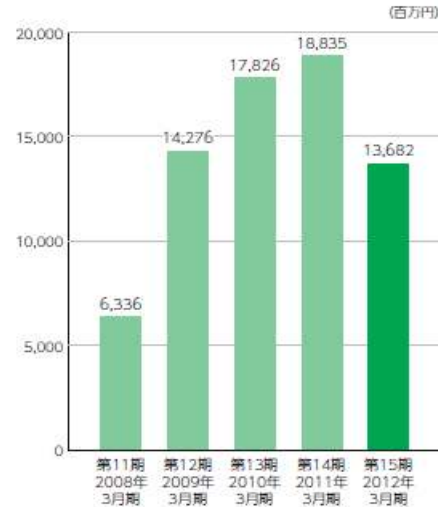
●2013年3月期 (第16期) の業績予想

	売上高 百万円	営業利益 百万円	経常利益 百万円	当期純利益 百万円	一株当たり当期純利益 円 株
通期	10,400	150	120	70	1,495.98
増減率 (%)	▲24.0%	▲71.9%	▲79.9%	▲78.7%	▲78.7%

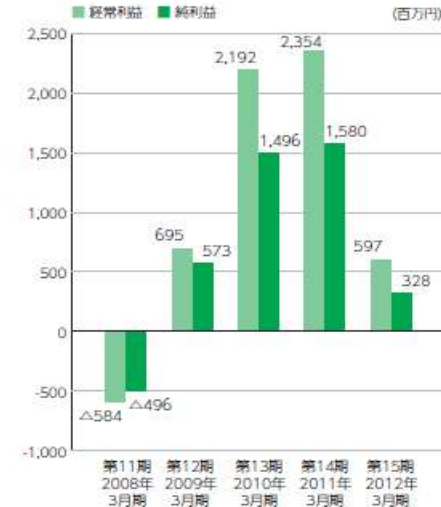
第16期のフラットパネルディスプレイ (FPD) 市場は、スマートフォン及びタブレット端末向けの中小型液晶パネルの設備投資はあるものの、後半に向けて回復基調が見込まれる大型液晶パネルの設備投資は次々期以降にずれ込む見通しであり、引き続き厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況の中、2013年3月期 (第16期) の連結業績見通しにつきましては、売上高10,400百万円 (前年同期比24.0%減)、営業利益150百万円 (前年同期比71.9%減)、経常利益120百万円 (前年同期比79.9%減)、当期純利益70百万円 (前年同期比78.7%減) を見込んでおります。

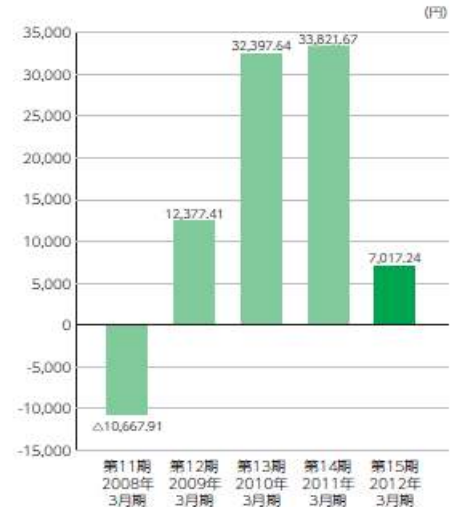
●売上高



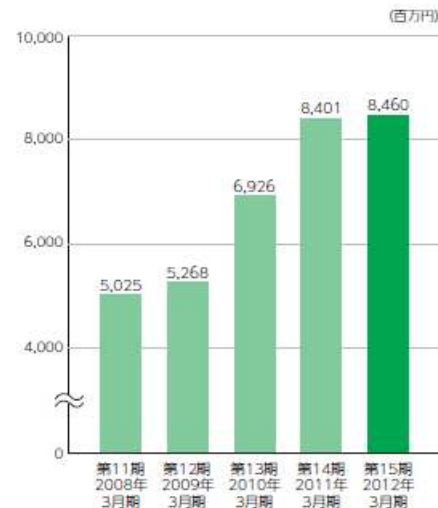
●経常利益/純利益



●1株当たり純利益



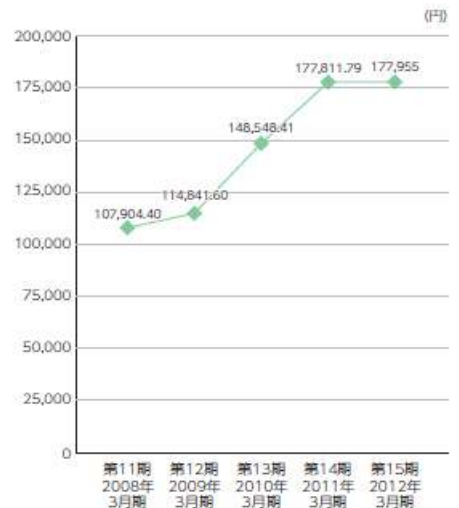
●純資産



●自己資本比率

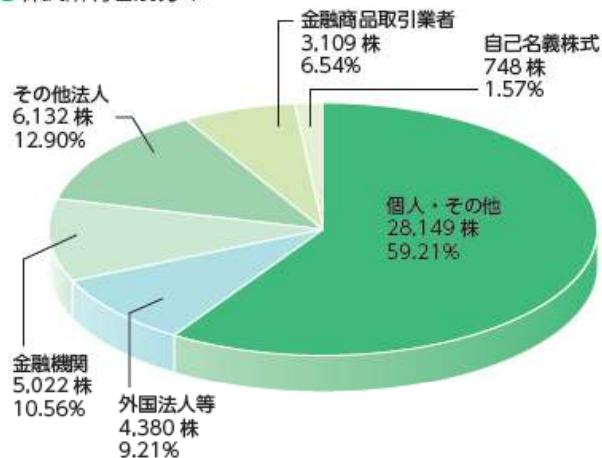


●1株当たり株主資本



●株式の状況 (2012年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 175,903株
- 発行済株式総数 47,540株
- 株主数 6,932名
- 株式所有者別分布



●大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
杉本重人	5,613株	11.80%
三菱冷熱工業株式会社	4,901株	10.30%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,244株	2.61%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	907株	1.90%
BARCLAYS CAPITAL SECURITIES LIMITED	712株	1.49%
ブイ・テクノロジー社員持株会	617株	1.29%
松井証券株式会社	600株	1.26%
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金特金口)	581株	1.22%
ジェーピー モルガン チェース バンク 385181	536株	1.12%
大和証券株式会社	465株	0.97%

当社は自己株式748株を保有しておりますが、上記「大株主の状況」から除いております。

●会社の概要

社名：株式会社ブイ・テクノロジー
 代表取締役：杉本 重人
 設立：1997年10月16日
 本社所在地：横浜市保土ヶ谷区神戸町134
 YBPイーストタワー9F
 TEL：045-338-1980
 FAX：045-338-1781

役員

代表取締役社長	杉本 重人
専務取締役	梶藤 康夫
常務取締役	井田 邦夫
取締役	和田 正隆
取締役	勝原 隆和
取締役	大倉 修一
取締役	田中 啓一
取締役	野田 勇

海外拠点

韓国 V Technology Korea Co., Ltd.
 台湾 V-TEC Co., Ltd.
 中国 Shanghai V Technology Co., Ltd.

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月に開催
- 配当金受領株主確定日
 - ・期末配当金 3月31日
 - ・中間配当金 9月30日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関
 - ・同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
TEL：0120-232-711 (通話料無料)
 - ・同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
- 上場証券取引所 東京証券取引所 (証券コード 7717)
- 公告の方法 電子公告とします。但しやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞社に掲載します。公告掲載の当社ホームページアドレス <http://www.vtec.co.jp>

(ご注意)

- 1.株券電子化に伴い、株主様の住所変更その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

